

Spring-8 ユーザー協同体研究会 利用者の動向調査報告書 (H27 年度版)

研究会名：構造物性研究会

日 時：平成 28 年 1 月 9 日 11:00-12:30

場 所：東京大学フューチャーセンター

(東京大学柏の葉キャンパス駅前サテライト 7F701 号室)

出席者：

有馬孝尚 (東京大学)、河口彰吾 (JASRI)、木村滋 (JASRI)、久保田佳基 (大阪府立大学)、黒岩芳弘 (広島大学)、杉本邦久 (JASRI)、竹田翔一 (広島大学)、飛田一樹 (東京大学)、中平夕貴 (広島大学)、西堀英治 (筑波大学)、馬込栄輔 (広島大学)、森吉千佳子 (広島大学)

計 12 名

1) 新分野・新領域に関する研究開発ニーズについて

BL02B2に新たに導入された一次元検出器MYTHENと今後導入される試料用高温チャンバーについて意見と要望があった。

- ・ MYTHEN と IP の違いについて質問があった。これまで IP を用いた電子密度解析について実績があるが、MYTHEN でもできるかどうか検討する必要がある。連装型 MYTHEN を用いてデータを連結する際のエラーがどの程度問題になるのか公表する必要がある。
- ・ MYTHEN の数え落としの意味について検討が必要である。
- ・ 高温チャンバーを使用する際、窓剤からの散乱について対応が必要。チャンバー内にスリットを取り付ける必要がある。
- ・ 高温チャンバーへ取り付け可能な試料の形態や種類を示してほしい。
- ・ 高エネルギーX線を使用できるようにしないのか。例えば 60 keV 程度の放射光を利用したい。そのために光学系を変更し分光器を上流に置くなどすることは可能か検討が必要。

2) その他

BL02B1とBL02B2への課題申請について、年4回公募に関する意見と要望を取りまとめた。以下に列挙する。

- ・ 募集は年4回で全て1年課題としてはどうか。

- ・ 募集は年4回で1/4年・1/2年・1年課題を併用としてはどうか。
- ・ ハイスループット化したので4期化することには意味があると思われる。
- ・ 産業利用で行われている4期化との差別化はどのようにするのか。
- ・ 年4回公募して、申請課題数が足りなかった場合は再公募してほしい。
- ・ 年4回公募すると、大学では実施したい時期が集中するかもしれない。
- ・ 1年課題がA期始まりという制度があった方がいい。
- ・ メールインについても検討してほしい。

<要望のまとめ>

- ・ 従来の1/2年ごとの利用だけでなく1/4年ごとを追加してほしいという意見が多かった。
- ・ BL02B2において1年課題も導入してほしい。その場合、開始はA期からのものもほしいという意見があった。

以上